

# 防災を考える。

Vol.7

東日本大震災から3年を経過した今、あらためて防災について考えてみましょう。

## 「火災」から身を守る

日頃から生活習慣を見直し、火災を起こさないよう防火意識を高めましょう。

### 火災発生時の鉄則

◎防火を心掛けていても、火災が起きてしまった場合の鉄則です。

①まず大声で知らせる。

・「火事だ〜！」と大声を出し、家族や近所に知らせる。

・小さな火でも119番通報。自分で通報できないときは、近くの人に通報を頼む。

※臨機応変に最善の対処を。

②早く消火する。

るだけ姿勢を低くして、ぬれタオルで口を覆うなどして煙を避ける。

・ぬらしたタオルなどで顔や体を覆う。炎の中は一気に走り抜ける。

・逃げ遅れた人がいる時は、近くの消防隊にすぐ知らせる。

・いったん外へ逃げたら再び中には戻らない。

・避難は、お年寄り、子供、病人を最優先。

・「火事だ〜！」の声を聞いたらずぐ119番通報。だれかが通報しているだろうと考えず、重なっても良いから直ちにダイヤルを。

・服装や持ち物にこだわらず、できるだけ早く避難する。

・天井に燃え移ったらもう手に負えない。消火をあきらめ、できるだけ早く避難する。

・カーテンは力いっぱい引きずり下ろし、天井へ火が燃え移らないようにする。

・煙の中を逃げる時はでき

・ふすまや障子戸は思い切り蹴り倒し、低い位置で消火。

## 119番の通報手順

◎火災を発見したら直ちに119番通報をしましょう！

火事か救急かを明確に伝え、消防署員の質問にはつきりと答えましょう。正確な住所はもちろん、具体的な目標や状況を伝えることで、消防車の少しでも早い到着につながります。住所が分からない場合でも、目標となる大きな建物や公共施設、信号機などの住所表示を知らせましょう。

①火事か救急かをはっきり伝える。

②住所を正確に伝える。

③何が(だれが)どうしたか状況を伝える。

④通報者の氏名と電話番号を伝える。

※119番は緊急電話ですから、緊急時以外にかけるのはやめましょう。

## てんぷら鍋火災の消火など

◎各場面で役に立つ消火方法を心得ておきましょう！

発見後の数分間が被害の大小を決めるといわれる火災。消火器は使い方を覚え、すぐ取り出せる場所に設置した上で、万一の時に備えましょう。さらに、場面ごとの消火方法を身に付けておきましょう。

★油鍋  
水をかけない。元栓を閉め、大きなふたをして空気を断つか、シートなどを濡らして手前からかける。

★消火器の正しい使い方  
①安全ピンに指をかけて上に引き抜きます。

②ホースを外して火元に向けます。(できるだけホースの先端を持つ)

③レバーを強く握ると消火剤が噴射されるので、煙や炎ではなく、火元に吹き付けます。